

# 永福寺略年表

(出典：『吾妻鏡』(別記を除く))

## 文治5年(1189)

- 7月19日 頼朝、奥州藤原氏と戦うために鎌倉を出発する。
- 12月9日 頼朝、奥州平泉で見た諸堂に感激し、永福寺建立を決める。

## 建久2年(1191)

- 2月15日 頼朝、永福寺を建てる場所を決めるため、大倉周辺を探す。

## 建久3年(1192)

- 1月21日 頼朝、二階堂建設現場で土工事を見る。
- 8月27日 頼朝、庭造りの専門家、静玄を京都から招き、庭石の配置について相談する。
- 9月11日 静玄、庭の池に石をならべ、頼朝はこの様子を見学する。
- 10月29日 二階堂の扉と仏背後の壁画が完成する。奥州毛越寺の金堂(円隆寺)の壁画を模す。
- 11月13日 頼朝、庭石の置き方に満足せずやり直させる。
- 11月25日 二階堂完成、導師は三井寺の公頭。

## 建久5年(1194)

- 12月26日 新造薬師堂完成。導師は前権僧正勝賢。二階堂、阿弥陀堂、薬師堂の三堂がそろう。

## 正治元年(1199)

- 正月13日 頼朝、53才で没する。
- 9月23日 頼家、永福寺で蹴鞠を行う。

## 正治2年(1200)

- 閏2月29日 頼家、釣殿で遊ぶ。

## 建暦元年(1211)

- 4月29日 実朝、時鳥の声を聞くために訪れるが聞けずに空しく帰る。

## 建保2年(1214)

- 3月9日 実朝、永福寺で桜の花見。

## 建保5年(1217)

- 12月25日 実朝、永福寺僧坊で終夜歌会を行う。

## 寛喜元年(1229)

- 3月15日 頼経、花見。
- 10月26日 頼経、蹴鞠、歌会を行う。

## 貞永元年(1232)

- 11月29日 頼経、雪見、釣殿で歌会を行う。

## 寛元3年(1245)

- 10月12日 頼経、如法経を永福寺奥山に納める。

## 宝治元年(1247)

- 6月5日 三浦の乱、三浦光村、永福寺惣門の内側に陣をかまえる。

## 建長2年(1251)

- 3月10日 頼嗣、永福寺で花見。

## 文応元年(1260)

- 2月18日 宗尊親王、桜の花を見る。

## 弘安3年(1280) (『北条九代記』)

- 10月28日 鎌倉大火で、二階堂焼失。

## 延慶3年(1310) (『北条九代記・見聞私記』)

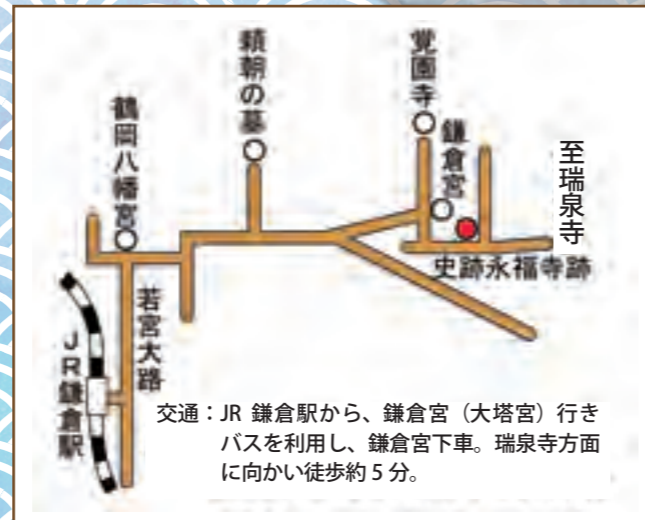
- 11月6日 浜辺の火の手で二階堂、大門、鐘楼が焼け落ちる。

## 元弘3年(1333) (『梅松論』)

- 5月 北条一族滅亡後、千寿王が別当坊に滞る。

## 応永12年(1405) (『鎌倉大日記』)

- 12月17日 永福寺炎上する。



国指定  
史跡

よう ふく じ あと  
永福寺跡

## 1. 建立の目的

永福寺は、源頼朝が文治5年(1189)に奥州平泉を攻めた後、戦いで亡くなった数万の将兵の鎮魂のために建てた寺院です。頼朝は、平泉で毛越寺や中尊寺を見て、永福寺の建立を思いついたとされています。

## 2. 境内

頼朝が征夷大將軍に任命された建久3年(1192)に中心の二階堂が完成しました。この堂の名は、現在の地名(二階堂)ともなっています。

建久5年(1194)までに、二階堂の両脇の阿弥陀堂、薬師堂が完成します。この三つの堂を中心に惣門、南門、釣殿、多宝塔、鐘楼、僧坊などの建物があったとされ、当時の旅日記などの文献には「その姿形は極楽の様子をそのまま表したようだ」と形容されています。二階堂の本尊は釈迦如来と考えられ、阿弥陀堂の阿弥陀如来、薬師堂の薬師如来と併せて三尊を祀る寺院でした。

頼朝の没後、頼家、実朝以下歴代の将軍たちは、境内で華やかな行事(蹴鞠、酒宴、花見、雪見、歌会等)を行うようになり、永福寺は幕府のサロンとして使われていくようになります。

鎌倉時代中期には大きな修理が行われ、鎌倉時代後期には二度にわたる火災に遭い、消失、再建を繰り返しました。応永12年(1405)12月の火災では主な建物が焼け落ち、その後しばらくして記録が途絶えてしまいます。この火災の後には再建されることなく、廃絶してしまったと考えられます。

## 3. 整備事業

当時の絵図などがなく、堂の規模や配置などは分かっていませんでしたが、昭和58年～平成8年にかけて中心域約15,800㎡の発掘調査が行われ、中心の二階堂、阿弥陀堂、薬師堂のほか、複廊、翼廊、釣殿、橋、庭園の規模や配置が明らかになりました。この成果から、永福寺は全国的に見ても有数の規模を持つ、当時の代表的な寺院であったことが分かりました。鎌倉市では、史跡指定地の公有化を進めるとともに、平成19年からは、調査成果を基にした建物の基壇(基礎)と庭園の復元など、永福寺跡の環境整備事業を実施してきました。

### 建物跡の表示

頼朝や政子らが踏みしめた当時の地面の上に、厚さ60cmの盛土をして遺跡を保護しながら、同じ位置に二階堂、阿弥陀堂、薬師堂の基壇を創建当時と同じ木製で再現しています。それぞれの堂を結ぶ廊下や釣殿は、礎石を設置して平面の形を示しています。使用している木材、石材は、調査で発見された材質と同じものを新たに設置しています。

### 庭園の整備

池も30cmのかさ上げをして、鎌倉時代の池を保護しながら再現しています。水際は浜砂利を敷き詰めて海浜の様子を復元し、庭石はできる限り本物を露出展示しています。本来の池はさらに東の道路側へ広がることが分かっていますが、復元ができないため、暫定的に板柵の護岸で池を区切っています。

# 発掘調査の 成果と整備の状況



復元CG図 (湘南工科大学・長澤研究室)



きたよくろう  
北翼廊の調査



埋め戻されている中ノ島



経塚で発見された  
銅製経筒



薬師堂前の水際の瓦溜まり



やりみず  
遣水の流路の調査



池東岸の橋脚



北岸の石組み



薬師堂の調査